

バナナの茎を原料に「名刺」

環境考え札幌の業者

「バナナ名刺」で環境と貧困を救える。札幌市の印刷会社「丸吉日新堂印刷」が、アフリカ南部ザンビア産バナナの茎を原料にした名刺を製作し、販売を始めた。従来、捨てられていた部分の商品化は、現地の雇用創出と森林保護に結び付く取り組みだ。

「『これ、バナナなんですよ』と名刺交換するだけで、相手は環境問題に関心を持ってくれる」。同社の阿部晋也社長(40)は笑顔で話す。

名刺は、茎の細かい繊維が浮かび、和紙のような風合いが特徴。茎と古紙を3対7の割合で混ぜて作る。茎はバナナの収穫後に廃棄されるごみで、新たに木を切らないため環境にも優しい。

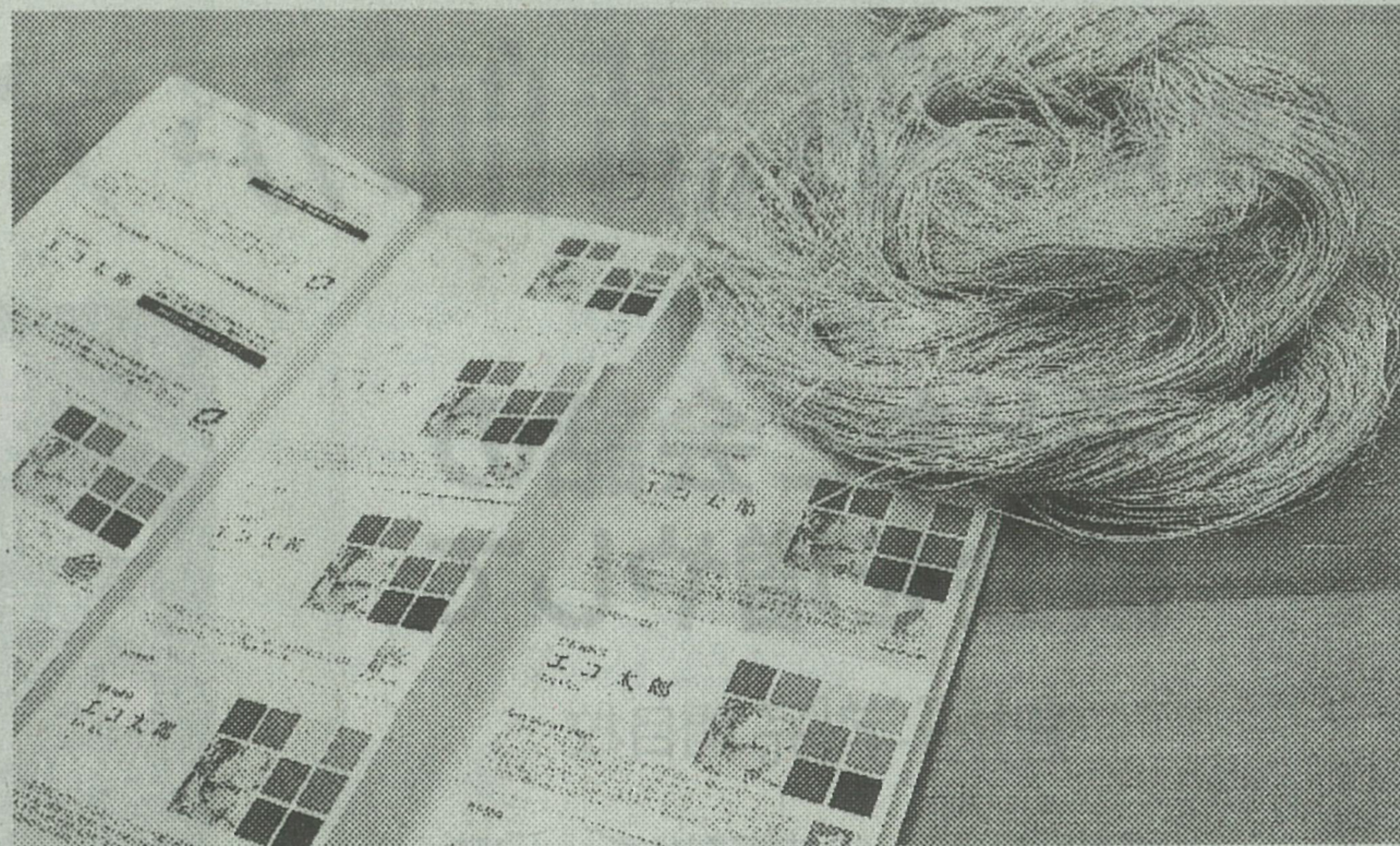
茎を乾燥させる工程などは、貧困者が多い現地に任せられ、雇用が生まれている。日本で4千人規模の会社がバナナ名刺に切り替えると、1年間で約200人のザンビア人が生活できるという。収入を得るための違法な森林伐採の防止にも役立ちそうだ。

同社は約10年前からペットボトルの再生材などを使った「エコ名刺」を販売。愛用するスウェーデン人の発案でバナナの茎の利用が実現した。ほかにも札幌・大通公園で売

られるトウモロコシの皮、牛乳パック、間伐材など15種類の名刺を扱う。

バナナ名刺は100枚で1680円からと2割ほど高いが、環境意識の高い企業や個人から注文が相次ぐ。顧客の8割は道外で、名刺交換や口コミを通じて人気が高まっている。

阿部社長は「環境問題の解決に必要なのは、互いを思いやるコミュニケーション。名刺を通じた人との出会いが、環境を守るきっかけになってほしい」と話した。



名刺の原料に使われる乾燥させたバナナの茎(右)と、様々な素材で作られている「エコ名刺」